

ISSN 2186 – 3989

外国学会発表報告

EAAA2024 – 東アジア人類学会 –

(East Asian Anthropological Association Annual Meeting 2024)

2024 年 11 月 8 日（金）～ 9 日（日）慶州（大韓民国）

国際コミュニケーション学部 伊藤 梢

北 陸 大 学 紀 要
第58号(2025年3月)抜刷

外国学会発表報告

EAAA2024 - 東アジア人類学会 -

(East Asian Anthropological Association Annual Meeting 2024)

2024 年 11 月 8 日 (金) ~ 9 日 (日) 慶州 (大韓民国)

国際コミュニケーション学部 伊藤 梢

発表題目 : Anti-global eating and growing: disconnect my body from the global agricultural network

報告者は、2024 年 11 月 8 日から 9 日にかけて、大韓民国・慶州に所在の K Hotel Gyeongju において、台湾・香港・中国・韓国・日本の東アジア 5 カ所にて毎年持ち回りで開催される East Asian Anthropological Association の年次大会に、発表者として参加した。本学会への発表者としての参加は 4 度目となる。今年度は韓国の古都、慶州での開催となったが、同地に人類学研究室のある大学はないため、例年のように大学施設ではなくリゾートホテルでの開催となった。

2024 年度のタイトルは「Local Knowledge and Localizing Future」であり、ローカルな知識がローカルをどのように概念化し、その未来を再認識するのに役立つかを検証することを目的としている。韓国人類学会との共催であり、発表者は英語ないしは韓国語での報告を行った。報告者は 2 日目の最終セッション “Re-defining Human-Nonhuman Relationship and Ecology” にて “Anti-global eating and growing: disconnect my body from the global agricultural network” というタイトルで発表を行った。以下がその概要である。



日本におけるオーガニック食品への渴望は、とりわけ子供たちの間で顕著になりつつある。本研究は、そのような食育の実践に焦点を当て、彼らの「社会性」が身体や母子関係を通してどのように「自然」を再創造しているのかを解明するものである。近年の日本では、親たち、特に母親たちの有機給食への取り組みが全国的に活発化している。近代医療によって出産と地域社会との結びつきが切り離され、その苦勞と不安は母親だけの重荷となった代償として、科学的な言説と非科学的な言説が混在する巨大なスピリチュアル市場がその役割を担ってい

る（橋迫 2021）。出産を終えた母親にとって、子供たちの健康と典型的な発育は大きな関心事である。オーガニック給食を実践する彼女らの活動の背景には、グローバルな農業のネットワークの中に身を置く、食品添加物、農薬、除草剤への不安がある。本研究は、母親たちを中心とした NPO 主催の食品・農薬の危険性についての講演会の参与観察と、有機農産物を食べたり作ったりしている人たちへの聞き取り調査に基づいている。中でもグリホサートという除草剤成分の忌避に焦点を当て報告を行った。農産物に残留するグリホサートの人体への影響は科学的には証明されていないが、彼女らの語りでは経年による蓄積が問題とされ、母体に蓄積されたグリホサートが子供の発達障害などの原因だと糾弾される。これを無知によるカルトだと切り捨てることは容易であるが、人類学における「サブスタンス」論を援用することで以下のような解釈が可能となる。彼女らにとって特定の化学物質を摂取しないという決断は、食料生産を「支配」する信頼できない大企業によるグローバル農業から身体を切り離し、より「自然」にすることを意味する。そうすることで野菜や米、農産物に含まれる目に見えない物質＝サブスタンスを彼女らにとって「実在」するものにしていくのである。

同セッションでは中国社会におけるペットに対する認識の齟齬に関する報告、および中国南東部をフィールドとした昆虫ハンターコミュニティにおける倫理観を題材とした報告が行われた。どちらも人間と非人間が築く関係性を通して自然と人間の境目を問い直すような研究であり、示唆に富む報告であった。また、セッション報告者が管理する SNS 上の若手人類学者コミュニティのメンバーに迎えられ、東アジア人類学の徒とのネットワークを構築することができた。総じて実りある学会参加となったことをここに報告する。

